

## 祝！同窓生が母校の准教授に就任

**琉球大学大学院医学研究科麻酔科学講座 准教授に就任して**

琉球大学大学院医学研究科 麻酔科学講座 准教授 中村清哉 (7期生)



平成26年10月1日付で、麻酔科学講座 准教授の任を拝命致しました7期生の中村清哉と申します。琉球大学医学部同窓会の皆様には日頃から大変お世話になっております。

私は、平成5年に琉球大学医学部を卒業し、初代琉球大学麻酔科学講座教授の奥田佳朗先生の麻酔科へ入局しました。研修医を修了後、平成7年に大学院へ進学しました。かなり苦勞して卒業後にカリフォルニア大学サンディエゴ校に留学し、脊髄虚血と遅発性神経障害の基礎研究を行いました。

平成12年より第2代琉球大学麻酔科学講座教授須加原一博先生の元で、臨床や研究、教育に携わりました。医局長を2期努めました。医学以外の仕事（調整や折衝や、もろもろの雑用）も何とか乗り越えることが出来ました。

平成26年に垣花学先生が母校出身初の教授として就任され、准教授を拝命され、現在に至ります。麻酔科は、垣花新教授を中心に若い講座として一から再スタートしています。先代の須加原先生の方針である“安全な麻酔”に加え、“周術期のアウトカムを重視する新方針”が加わり、術後の患者満足度を向上し、合併症を減らしていく意識が、医局員に広がってきました。

臨床では長らく臨床麻酔を続けてきましたが、平成19年より、ペインクリニックと緩和ケアを担当することになりました。

ペインクリニックは、三叉神経痛や帯状疱疹後神経痛などの慢性疼痛を対象にしています。麻酔科は大所帯ですが、ペインクリニックを専門にしている医師は4人で、琉大病院以外でも専門医を持つ先生がまだまだ少ない分野です。また、緩和ケアは、前任の笹良剛史先生が作った緩和ケアチームを引き継ぎ、今年で7年目になります。手探りで緩和ケア講習会を主催し、いろいろな人の支えのもとで現在まで毎年開催することが出来

ました。平成26年からは、従来、がんセンターの下で活動していた緩和ケアチームが緩和ケアセンターとして稼働し始めました。癌は日本人の死因の一位であり、緩和ケアが必要な患者は増加の一途です。沖縄県でも終末期のがん患者が治療を十分に受けられない（がん難民）現状が少なからずあります。地域のホスピス、在宅緩和を提供されている病院と連携し、沖縄県の緩和医療の中核としての機能が果たせるように努力していきたいと考えております。

医学部学生に対しては、これまで以上に麻酔科の魅力や重要性が伝わる実習や講義内容とすべく、より創意工夫を凝らしていきたいと考えております。ポリクリでは先代の須加原先生の方針を引き継ぎ、基本的な医療手技を実際に学生に体験させることで、学生からの評価の高い、心に残る実習を目指しています。

沖縄県内で麻酔科医を目指す若い医師の育成も最重要課題であり、そのための環境づくりや、大学の麻酔科として他施設との密な連携を構築していくことにより、一人でも多く麻酔科に興味を持って頂けるような環境整備を行っていきたいと考えております。

研究面では、大学麻酔科から臨床研究や基礎研究を通じた新しい知見やエビデンスを発信することが非常に重要であると考えております。現在、多くの研究について医局員や大学院生、専門医が協力して臨床研究および基礎研究を行っております。しかし、ペインクリニックや緩和ケアの分野では、系統的な臨床研究の実績がまだありません。疼痛コントロールが困難な緩和ケア患者に対する侵襲的な神経ブロック（ペインクリニック）によるインターベンショナル治療を行う機会が最近増えているため、このようなペインクリニックと緩和ケアを融合した臨床研究を計画し早急に実現したいと考えております。

最後に、浅学の身ではございますが教育、研究、診療に一層精励いたす所存でございますので、今後とも何卒倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。